

事故再発防止に関する現場視点での一考察

筆者は50年近く中小化学企業の中で、研究・技術・工場管理・経営等の現場に身を置き『ものづくり』に関わりながら過ごしてきた。

『ものづくり』の現場では、毎日のように多種多様な問題が発生しており、企業内では管理者がその後始末に追われているというのが実態のように感じている。どこの工場敷地内にも「安全第一」や「品質第一」といった横断幕や看板が掲げられているにも関わらず、安全や品質に絡んだ問題発生が後を絶たないのはなぜであろうか・・・という疑問をずっと持ち続けてきている。その疑問解消のヒントを得たいがために本学会内で活動している『事件事例研究会』にて参加者と意見交換を試みている。

企業内の各現場では、発生してしまった問題について、当然再発防止を目指して対応したはずであるにも関わらず、多くの場合再発しているというのが現実の姿ではなかろうか。これは発生した問題の種類・その問題への取り組み方・各現場が持っている力等々が複雑に絡み合っていることによるものと思われるが、若干気になる部分がある。各現場責任者の大部分は事故が発生した場合の取り組み方について“頭”のレベルでは分かっているつもりになっているが、ここに一つの落とし穴があるように感ぜられる。職責上、発生した問題を忙しい日常業務の合間を見ながら、早急に処理する必要にも迫られ、社内ルールに則り問題を処理していると思われるが、大事なことは**問題を処理することと問題を解決することは必ずしもイコールではない**ということに気付いている責任者がどれほどいるのであろうか。また、どれほどの本気度で取り組んでいるのであろうか。問題を処理して“おしまい”という取り組み方について誰が指導しているのであろうか。

真の問題解決には程遠い問題処理でコトが済まされ、仕事が続行されている理由は何であろうか。多忙だからであろうか。会社側が正しい仕事のやり方を明確にしていなかったからであろうか。問題解決のやり方が分からないからなのであろうか。適当な仕事のやり方でも誰も文句を言わないからであろうか・・・。

問題解決に当たる責任者は取り組む姿勢・本気度・広い視野・問題解決力等々、幅広い力量が要求されるように感ずる。しからば、要求される力量をどのようにして身につけたらよいのであろうか。言い古されていることではあるが、各現場責任者の力量向上に奇手・奇策はあり得ず、時間がかかっても発生した問題(貴重な教材)にしっかりと向き合いそこから学び取るということを粘り強く地道に積み重ねる以外にはないように感じている。

このようなことをつらつらと考えゆくと、トップ(企業経営者や管理者)の器量が現状を決めているようにも思われ、トップの意識・経験・思い・力量がどれほど現場に届いているのかも問われるように思われる。組織のトップから末端までそれぞれの立場・役割について見直しを実施し、本気で事故の再発防止に取り組もうと心を新たにす今日この頃であるが、会員諸兄のご意見はいかがでありますでしょうか。

監事 野田 剛